

～長引く咳～

お子さんの咳が1か月～2ヶ月くらい続いたことはありませんか？

薬を飲んでもなかなか治まらず、いつになったら治るのだろう？と疑問に思いながら通院を続けたことのある方はたくさんいると思います。軽い風邪ならば多くは2週間以内に咳は落ち着いてきます。しかし、子どもは元々咳の反射が強いこと、まだ痰を上手に出せなかったり鼻水をかみきれないなど、いろいろな原因で咳が長引いてしまうのです。



よくある原因をあげてみます。

① 気道が過敏な状態

感染症やアレルギーなどで気道の炎症が強くなると、しばらくは気管支が敏感な状態が続きます。そうするとちょっとした刺激（風邪、冷たい空気、運動など）でもすぐに咳き込んでしまいます。このような時は、喘息のお薬を一時的に使うことで、気道の過敏性を早く元に戻し、落ち着いてくるのがよくあります。喘息の場合は、気道過敏亢進の状態が常に続いているために咳が長引いたりゼイゼイしやすくなります。しかし、咳が長引くからと言って全員が喘息というわけではありません。一部に喘息の可能性があるのでその場合は検査と治療を続けます。



② 副鼻腔炎

鼻の奥は、目の下の空洞ともつながっており、とても広いです。その副鼻腔で炎症を起こし、膿が貯まると、蓄膿症と呼ばれたりもします。副鼻腔炎の原因は風邪やアレルギー性鼻炎がほとんどですが、鼻の奥がグジュグジュして、咳が長引く時には副鼻腔炎が原因になっている可能性があります。治療は、鼻吸引、抗アレルギー剤や点鼻薬、マクロライド系抗菌薬の少量投与を続けるなどがあります。

③ 集団生活

保育園・幼稚園は、常に色々なウイルスや常在菌がいっぱいの環境です。そして入園する頃はまだ免疫力が弱い年齢のため、風邪が治ったと思ったら、数日でまた別のウイルスに感染して再び咳や鼻水が出てきたり熱を出したりします。特に入園して1年ほどは、2～3ヶ月間咳や鼻水が続いたり、1ヶ月に2～3回熱を出すことも珍しくありません。その度に免疫がついて強くなりますが、ある程度大きくなるまでは仕方がありません。しばらくの間は我慢ですので、一緒に頑張りましょう。

④ マイコプラズマ感染症・クラミジア肺炎（性感染症のクラミジアとは違います）

咳が平均で30～45日続き、途中で微熱が続いたり、一部の人は高熱が出て肺炎をおこします。マクロライド系等の一部の抗菌薬を使用することで早く改善します。



⑤ 百日咳

以前から多いのが百日咳です。小さい赤ちゃんの百日咳は特徴的な咳が出るのでわかりやすいですが、四種混合（または三種混合）ワクチンを接種済みの子どもも4-6歳になると抗体価が低くなるため、百日咳菌が原因で咳が続く子ども・大人がいます。（**“三種混合百日咳の項（HPNo.23）”**もご覧下さい）



以上、比較的多いものをあげてみましたが、最初の咳が出始めた段階で全ての鑑別ができるわけではありません。

普通の風邪なのかどうか、ひとつの見極めは2週間以上咳が続くかどうかです。2週間以上長引く時にはいろいろな原因を考えて検査、治療を行います。